

「病なんかに負けられません！」

訳あって主治医の先生に診断書を書いていただきました。

“38歳で発病、現在50歳”

随分長いこと病人をしているのだなあと思います。

歩きにくいなあ、震えるなあ、つかれているのかなあ。。。

身体に異変を感じて、いろいろな病院で検査をしても長いこと原因不明。結局パーキンソン病。わかったときはショックよりも、「ようやく合う薬を服用することができる」とほっとしたような気持ちでした。

最初は「5年くらいで治す方法もできる。薬もいいものがどんどんできているから」と当時の主治医から言われました。

5年は長いなあ、と思いながらもなんとか過ごしてきました。でも治療法はまだ確立せず、10年が過ぎ、かなりの量の薬を服用しても症状のコントロールが難しくなってきました。

40歳代は全部病気だったなんて…。正直、大声で泣きたいです。

でも不思議なことに、あのまま健康だったら、と想像する自分よりも今の私のほうがたぶん幸せです。

小学4年生 最近学校を欠席してしまうことが多くなってきた女子。

「ねえ先生、みんながいるところで身体がふるえちゃったことある？」

「もちろんあるよ」

「先生は恥ずかしくないの？」

「恥ずかしいよ。すごく嫌な気持ちになるよ。」

「でも先生はでかけたり、こうして子どもの話をきいたり、お母さんの話もきいたりしてるでしょ」

「うん、してる」

「恥ずかしいのにどうしてできるの？」

「恥ずかしいけど何か悪いことをしたとかそういうことじゃないもの。これが私の人生。こうしているうちにも生きていられる大切な時間は過ぎていってしまうから、恥ずかしがっている場合じゃないって思うよ。。。」

この女子、次の日から1日も休まず学校に行っているそうです。

どうにもならない現実。けれども必死に生きている。育児相談にいらした方たちにもこういう“共通点”がある。だからこそ本音で話をしてくれます。…